

GT Asia Series Rd.3&Rd.4  
in  
岡山国際サーキット



東 徹次郎  
TOHJIRO AZUMA

## 岡山完全制圧！！

### チーム一丸となって勝ち取った3連勝！！

- ・開催サーキット：岡山国際サーキット（3.703km）
- ・チーム：AGE♂AGE♂RACING
- ・マシン：Ferrari 458 Challenge
- ・メンテナンス：東名スポーツ
- ・カーナンバー：#70
- ・クラス：GTM
- ・ドライバー：1st NAORYU 2nd 東 徹次郎



## 予選（6月29日）

Rd.3 ◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

Rd.4 ◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

今回の岡山は自分がプロドライバーたちの出る Rd.3 の予選を担当し、NAORYU 選手が Rd.4 の予選を担当になりました。佐々木孝太監督と打ち合わせをし、タイヤのパフォーマンスを考えて走っても 2 アタックのみという作戦でいたので、計測 1 周目から勝負をかけて臨みます。コースインすると、出来るだけ前を良い状態にしてアタックしたいので、タイヤを傷めない程度にプッシュして何とかポルシェ 2 台を抜かします。そして確実にライバルになるであろう 88 号車のアウディーR8 の背後に迫ることに成功します。

この 88 号車に合わせて一発集中のアタックへ。ここでクラストップタイムを出すことに成功します。そのまま次のラップもアタックに入りましたが、ミスもあったのと最終コーナー手前でイエローフラッグが出ており、アタックを止めました。結局次のラップもアトウッドコーナーでスピン車両がいたので、アタックせずにタイヤ温存でピットへ戻りました。予選の最後で 88 号車がタイムを更新してきてトップこそ譲ってしまい悔しさはありましたが、手応えもあり、タイヤも温存出来たので満足いく内容で予選を終えます。

Rd.4 も NAORYU 選手が自己ベストを 1 秒以上更新する素晴らしい走りで、クラスポールポジションを獲得しました。

**Rd.3 予選タイム：1'35.041 総合 9 位（クラス 2 位）**

**Rd.4 予選タイム：1'35.762 総合 7 位（クラス 1 位）**



## Rd.3 決勝（6月29日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

Rd.3 は自分がスタートドライバーです。

前回のもてぎで優勝していることもあり、自分たちは規定の75秒のピットストップに、更に8秒が加算されて83秒のストップとなっていました。

そう、GT ASIA では、一つ前のラウンドの結果が反映され、（優勝、2位、3位にはそれぞれ8、4、2秒）のタイムボーナスが付くのです。

今回自分の中でシュミレーションしていたのは、ライバルである88号車には一発のタイムでは何とかなっても、やはりマシンの元々のポテンシャルの高さゆえにコンスタントラップでは厳しいものがあります。

その為、スタートしてからの3周までに抜けなければ何とか離されず食らいついて行くしかないと考えていました。

食らいつきながら3位とのギャップを広げられれば、8秒余計に止まっても勝機は見えてきますからね。

そしてもう一つ、予選で88号車の後ろを走った時に、アタックラップで食いついていたら向こうはやや姿勢を乱す素振りがあり、これはプレッシャーをかけることが出来ればミスを誘発出来るのでは、と読んでいました。

スタートはインサイドでからです。

青になった瞬間自分の隊列は前が遅く、逆にアウト側の隊列の方が速いので1コーナーまでに3位の10号車に並ばれてしまいます。

しかし何とかこらえて、2コーナーもアウトから被せてポジションキープに成功。そして高速のモスエスを抜け、アトウッドコーナーのブレーキングで前の88号車のインが空いたので、間髪入れずにそのスペースに飛び込みました。

こっちの左サイドと88号車の右サイドが軽く接触し、並走したままバックストレートへ。

ここで一旦半車身前に出るもブレーキで分のある88号車に再び並ばれ、並走しそのままヘアピンを立ち上がるのですが、次のコーナーでは自分がアウト側で、しかもタイトコーナーだったので抜くことは出来ませんでした。

アトウッドでの接触で自分は左のミラーがキレイにたたんでしまい、左のミラーは見えなくなっていました。

しかしこのバトルで、少なからず88号車にプレッシャーをかけることが出来ました。

高速コーナーで離されて、タイトコーナーで追いつき、食らいついていたら3周目に入った高速の2コーナーで、88号車が単独スピン。

危うくぶつかりそうになりましたが、本当にあと数センチというところで交わすことに成功し、トップに浮上します。

ここからは最初よりはプッシュを抑え、マシンに気を遣いながら後方の10号車とのギャップを広げていくよう努めました。

大きくマージンを築いてピットインするものの、ピットで自分がうまくシートベルトをNAORYU選手に入れてあげられずロスしてしまいますが、無事トップでコースへ戻ることが出来ました。

非常に暑くなったレースですので後半はよりタイヤも厳しかったと思いますが、NAORYU選手がその中でも安定して走行し、最後は20秒くらいのギャップを作って前戦のもてぎに続く連勝を飾ることが出来ました。

### Rd.3 : クラス 1位 (総合 7位)

ベストタイム : 1'37.535



## Rd.4 決勝（6月30日）

◆Weather：曇り ◆Course：ドライ

先日の晴天&暑さとは打って変わって、一時は雨もパラつきそうな過ごしやす  
いコンディションで迎えた Rd.4。  
今回は後半スティント担当でした。

Rd.4 はポールポジションスタートでしたが前車に詰まった 2 コーナーでアウ  
トから 10 号車に先行を許してしまい、序盤は 2 位キープで走行していきます。  
しかしそこはやはり頼れる相方です。

軽くバンパー同士が接触するバトルもありながら、トップに返り咲いてくれま  
す。

そしてセーフティーリードを作った状態で、自分に交代。

先日に引き続き 8 秒のタイムボーナスもありましたが、今回は完璧なピット  
ワークでコースへ戻り、後方に約 3 秒から 4 秒程のリードがありました。  
マシンの状態も思っていたより消耗も少なく乗りやすかったので、そのリード  
を保ったままの走行を心がけました。

途中少しペースを上げて 37 秒フラットを出した時に後ろとも離れ、無線でも  
っとプッシュが必要か訪ねましたが後ろもペースが落ちてきていたので、後は  
縁石も乗らないよう走りながらしっかりとマシンを労わり、ゴールまで運ぶこ  
とだけに集中しました。

そしてチェッカーの瞬間です。

終わってみればまさかまさかのもてぎからの連勝を 3 に伸ばす、岡山ラウンド  
完全制覇のチェッカーとなりました。

## Rd.3：クラス 1 位（総合 8 位）

ベストタイム：1'36.768



## 反省

今回レースの結果としては、完璧なものとなりました。  
しかしながら、攻めた結果ですが少し接触してしまったこと、そしてピットでロスしてしまったことなどは今後また改善しなければと感じます。  
今回の連勝で次回の富士では、よりハンデが増えてしまうこともありえないとは言えません。  
だからこそ、ミスをもっと減らして完璧な内容のレースをしていかなければと思います。

自分の走りの中では攻めた **Rd.3** と、リードをもらいながら、後方をコントロールしながらの **Rd.4** という、違う心境で少し違った走らせ方が出来たので、非常に良い経験になりました。  
また、強気の姿勢で攻めたからこそ **Rd.3** では相手のミスも誘発出来たとも思うので、今後もこの姿勢とスピリットはより向上させていきたいと思います。  
予選でも一発でタイムを出せる集中力と技術が身についてきたのを感じますし、この部分をより洗練させ、もっともっと自分を高めていきたいと思います。



## 最後に

今回の岡山は当初は参戦しない予定でしたが、もてぎでの好結果もありますし急遽決まりました。

ここでも自分にチャンスをごくださった NAORYU 選手には本当に感謝したいと思います。

自分に出来るのは‘結果’で恩返し。

その中で今回の岡山ラウンドは連勝という素晴らしい内容で終わったことが、本当に嬉しいです。

レース中の確な無線や走行のアドバイスをくださった佐々木孝太監督、そして素晴らしいマシンに仕上げてくれたメカニックの皆様、そしてオフィシャルやオーガナイザーと的確なやり取りをしてくれて不安無く集中出来る環境を作ってくれたマネージャーの國武さんに感謝です。

また、スポンサー様や応援してくださっている多くの方がいるからこそ、力を頂き、背中を押してもらっていると感じます。

このようなステージで走らせて頂き、本当に有難うございます。

次は7月13・14日の富士スピードウェイです。

インターバルもほとんどありませんし3連勝のこの勢いで、チームの士気の高いまま富士に乗り込みたいと思います。

もちろんハンデを跳ね返すくらいの走りをして次回も勝ちにいきます。

どうぞ、今後ともご支援ご声援の程、宜しくお願い致します。

2013年7月1日

東 徹次郎





